

3. 木津北・東地区におけるこれまでの検討経過

3-1 独立行政法人都市再生機構による事業の中止

木津北・東地区はニュータウン事業等を目的とした開発が行われる予定の地区であったが、事業を取り巻く社会経済状況等の変化やUR都市機構に対する今後のあり方等に対する議論等により、以下のように見直しされている。

概要

- 木津北・東地区においては国土交通省から「事業中止」の方針決定の通知がなされており、UR都市機構所有地の早期処分が求められている。

表 UR都市機構におけるニュータウン事業の見直しに至る主な経緯

時期等	見直しに関する計画	概要
平成15年 国土交通省通知	都市基盤整備公団 ^(注) 事業の再評価に係る 対応方針について	<p>木津北・東地区の都市基盤整備公団^(注)事業中止 →関西文化学術研究都市としての位置付けがあるものの、隣接する地区に今後供給予定の宅地が相当量あること、更に同地区に比べ交通条件が厳しいことから、公団による大量の宅地供給を主要な目的とする本事業は事業中止</p> <p>→関西文化学術研究都市における位置付け、地元の意向を踏まえつつ、当地区的まちづくりについて地方自治体等と協力して検討</p>
平成22年 閣議決定	独立行政法人の 事務・事業の見直しの 基本方針	ニュータウン整備事業については平成25年度までに工事を完了し、地価動向等の市場環境の変化にも留意しつつ、平成30年度までの土地の供給・処分完了に向けた取組みを促進する。

(注)都市基盤整備公団は「現 UR都市機構」。

3-2 これまでの検討経緯

木津地区では「木津北・東地区土地利用検討会(平成 15 年度)」、「木津地区まちづくり検討委員会(平成 17 年度)」と「木津東部丘陵持続可能都市整備構想検討会(平成 20 年度)」の過去 3 回に渡り、専門家を交えて土地利用構想の検討を積み重ねてきた。そこでの検討項目は以下のとおりである。

木津北・東地区土地利用検討会の概要

- ・UR 都市機構の事業中止を踏まえ、専門家を交えて望ましい土地利用、土地利用の実現方策、具体化に向けた検討課題について検討を実施。

木津地区まちづくり検討委員会の概要

- ・学研都市を代表する中核的クラスターとして木津地区を大いに発展させ、学研都市東部における拠点地区として具体化へ向けた事業の再構築を図る検討を実施。

木津東部丘陵持続可能都市整備構想検討会の概要

- ・木津地区とその周辺の既成市街地及び自然環境を含む「木津東部丘陵」一体におけるまちづくりの方向性を確認。
- ・持続可能社会の実践の場としての役割の明確化、さらにはオオタカの地域個体群の確保や生物多様性の保全と、産官学や地域の人々との一体的な取り組み体制の構築を図り、学研都市らしい先進的な持続可能都市の姿を形成するための具体的方策の提示。

〈木津北・東地区土地利用検討会(平成 15 年度)〉

木津北・東地区を取り巻く諸条件を整理し、木津北・東地区土地利用検討会における検討の結果、木津北・東地区における今後の土地利用のあり方は以下の通りとした。

〈基本的視点〉

- 自然再生の時代に対応した近畿圏における広域緑地の一環として位置付け、文化学術研究都市に相応しい地域環境が有するポテンシャルを生かした新しい土地利用をめざす。
- クラスター内外で、先進的な学術研究資源、高水準の都市居住ゾーンと、これまで豊かな生態系を維持してきた里山、農業・農村環境資源を有機的に連携させつつ、地域全体としての環境質、生活質、活力の向上を図る。
- 木津中央地区で営巣確認されたオオタカの保全に配慮し、木津地区全体として「オオタカと共に生するまちづくり」を進める。
- 都市的土地利用（宅地開発）の範囲を極力限定することを基本とし、土地所有者の意向との調整を図る。
- 里山を生物多様性の向上とともに新しい生産の場、活用の場として位置づけて再生を進める。

〈望ましい土地利用〉

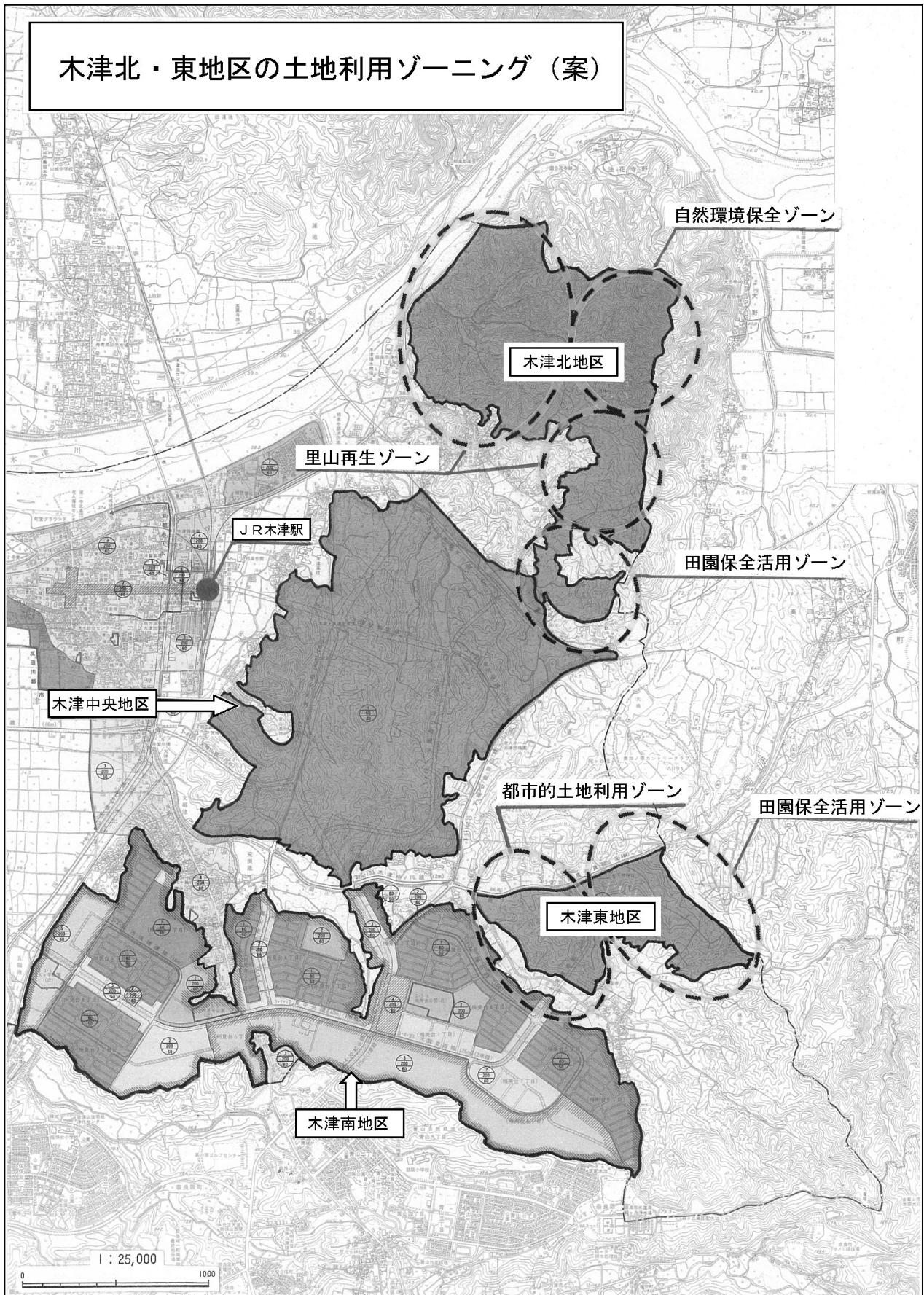
木津北地区

木津北地区は地域におけるシンボル性、歴史的重要性に加え、オオタカの営巣環境としてのポテンシャルの高さから、里山環境の再生に取り組みオオタカが営巣し得る環境を再生することが望ましい。

木津東地区

木津東地区は木津北地区に比較して宅地整備のための諸条件に優れていることから、地区の優れた田園環境の保全・活用に配慮しながら必要最小限の都市的土地利用ゾーンを設けることが望ましい。

木津北・東地区の土地利用ゾーニング（案）



(出典:木津北・東地区土地利用検討会(平成 15 年度))

<木津地区まちづくり検討委員会（平成17年度）>

木津地区のまちづくり目標として4つを掲げ、木津北地区は「自然環境保全ゾーン」「里山再生・活用ゾーン」「田園保全・活用ゾーン」「歴史文化ゾーン」、木津東地区は「田園保全・活用ゾーン」「居住ゾーン」として位置づけられている。

<まちづくりの目標>

- ・学研都市における中核的な自然科学系研究拠点や次世代ものづくり拠点の形成
- ・新市の中心地域に相応しい多様な都市機能の導入
- ・オオタカと共生し、新時代の里山文化を発信するまちづくり
- ・都市と農村の交流を通じて学研都市の新しいライフスタイルを発信するまちづくり

<ゾーンの方針>

○自然環境保全ゾーン

- ・木津川左岸の重要なランドマークであり、オオタカの生息環境において核心的なエリアを形成する緑地として位置づけられる木津北地区の森林を、自然との共生文化を象徴するシンボル的緑地等として保全を図る。

○里山再生・活用ゾーン

- ・木津北地区のまとまりのある樹林地、既存集落の背後林等を「里山再生・活用をテーマとする実験フィールドとして位置づけ、行政、民間企業、農業者、市民ボランティア、NPO等の多様な主体の参画による森林風致の向上への取り組みをすすめ、同時に文化・学習、健康・レクリエーション活動等の展開を図る。またCO2の固定化、里山の再生、資源の循環的活用等をテーマとした企業・研究機関等の環境活動や研究フィールドとしての活用をすすめる。

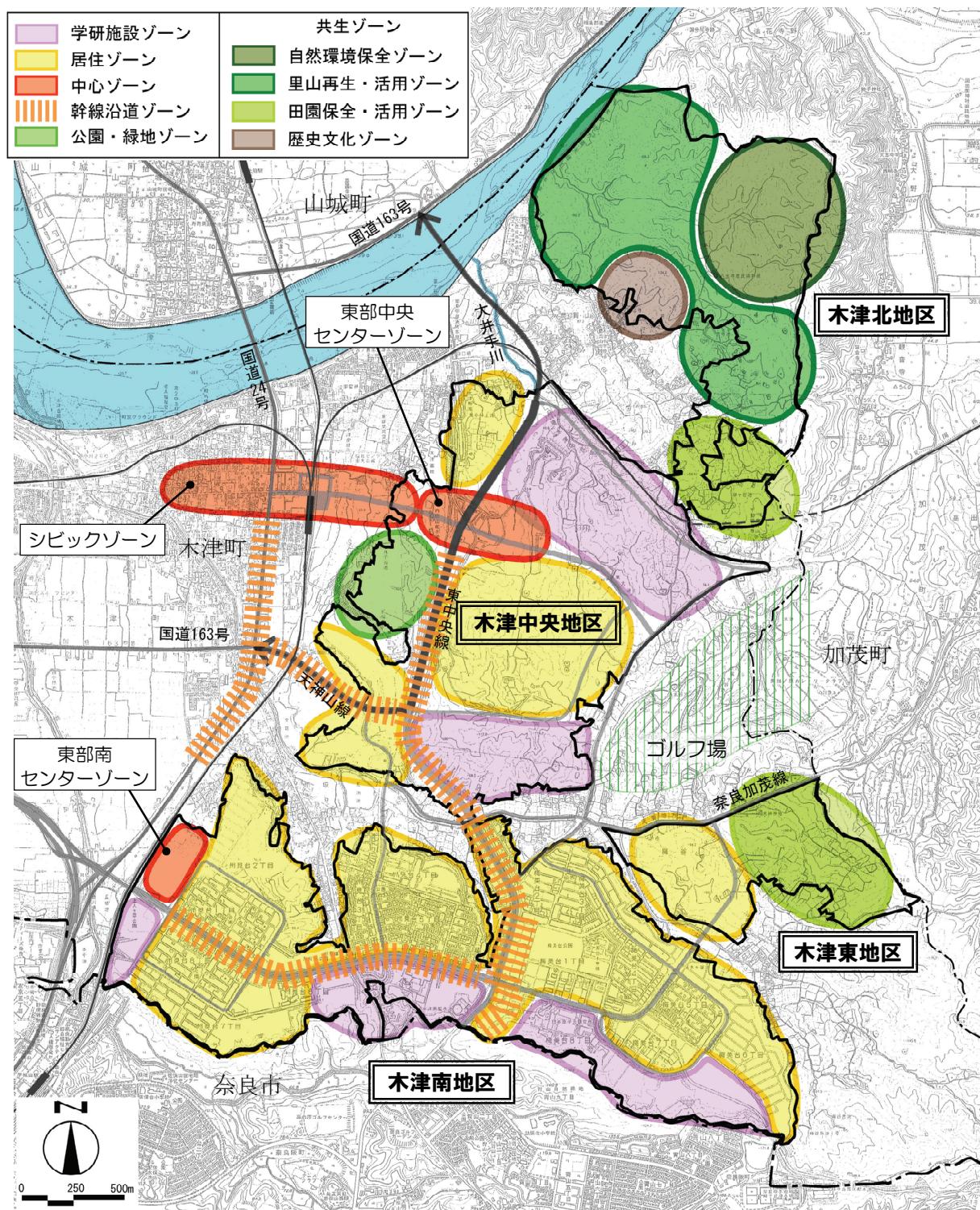
○田園保全・活用ゾーン

- ・木津北地区・東地区の農地、果樹園を主体とするエリア、クラスター周辺の農地等において、特産の富有柿、大根等の農業生産の振興を図り、農業に係わる広域的な地域振興施策をも組み込みつつ、地域農業の活性化を推進する。
- ・また、農業者、都市住民、NPO等の参画のもとに多様な都市と農村の交流プロジェクトを展開し、「農とのふれあい」をテーマとして学研都市の新しいライフスタイルを発信するまちづくりをすすめる。
- ・さらに、学研都市の植物バイオ系研究機関等との連携を図りつつ、環境への負荷の少ない持続可能な栽培システムなど新しい栽培技術の実証実験のフィールドとして活用する等、学研都市ならではの新しい農業への取り組みを推進する。

○歴史文化ゾーン

- ・鹿背山城跡について、地域のシンボル的な歴史資源として保全活用するため、歴史(史跡)公園等としての保全整備を検討する。

図 土地利用構想



(出典:木津地区まちづくり検討委員会(平成17年度))

<木津東部丘陵持続可能都市整備構想検討会（平成20年度）>

平成17年度の検討を踏まえるとともに、持続可能社会の実践の場としての役割の明確化、さらにはオオタカの地域個体群の確保や生物多様性の保全と産官学や地域の人々との一体的な取組み体制の構築を図り、学研都市らしい先進的な持続可能都市の姿を形成するためのまちづくり目標やゾーニングについて見直しを行ったほか、まちづくりの取組みメニューを定めた。

<まちづくりの目標>

- ・持続可能社会の実現に貢献する研究・開発の実践
- ・オオタカをシンボルとする生物多様性の確保・里山環境の再生
- ・自然と人間のかかわりをベースとする環境価値の創造

<まちづくりの基本方針>

- ・地域資源と高度な研究活動が融合する、持続可能な社会の実現に資する実証・実験フィールドの形成
- ・多様な主体の参画と連携・ネットワークによる、重層的な活動の展開
- ・活動成果の活用と地域交流の促進による新たな文化・ライフスタイルの創造・発信

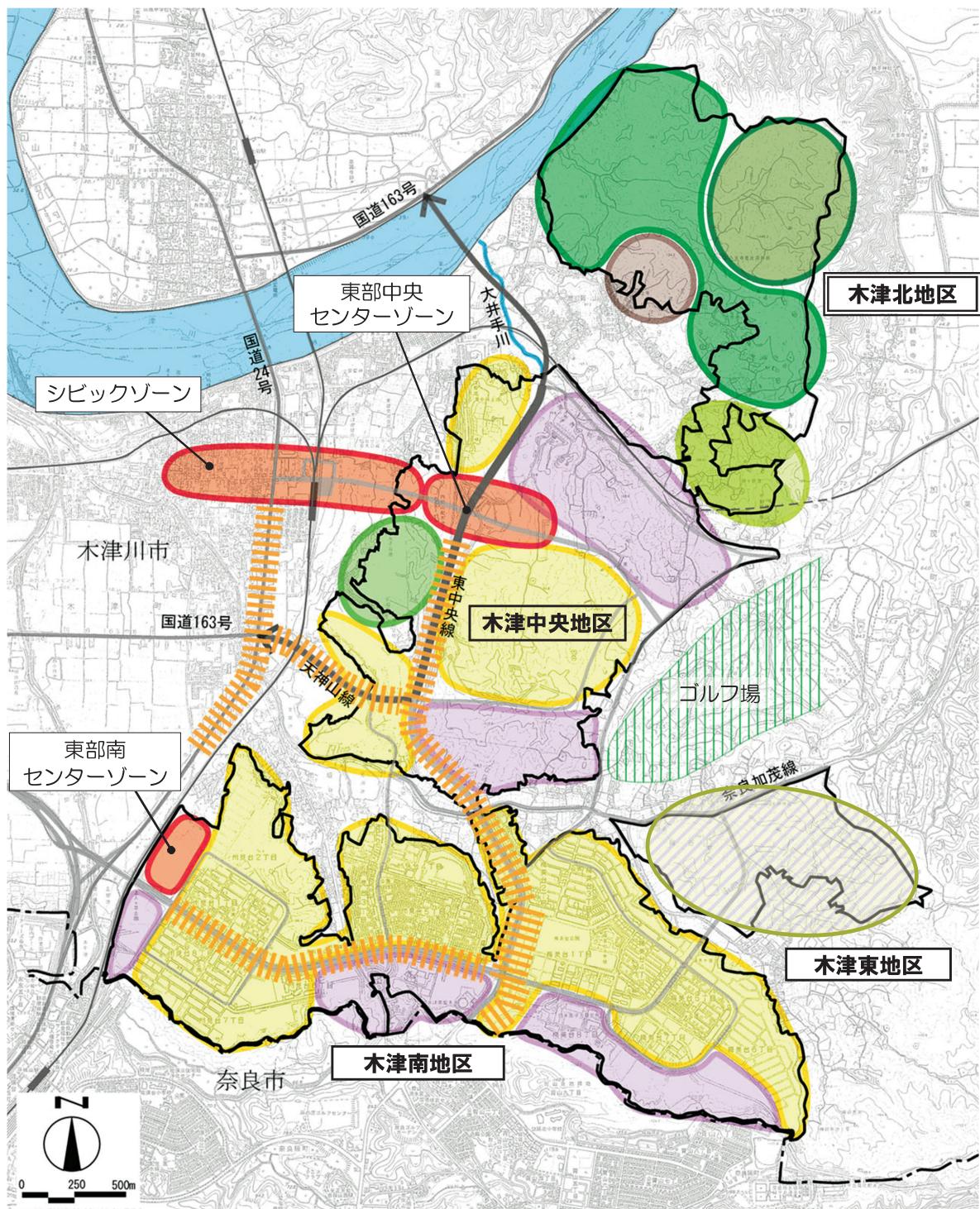
<取組みメニュー>

里山環境を活用した文化・交流	多様な主体の連携を受け止めるフィールドとして活用する 地域資源(歴史・地元活動・里山等)活用、芸術振興、企業CSR支援 等
田園環境を活用した交流拠点	農業振興の拠点形成や、交流型農村リゾート機能等を導入する 農業振興拠点形成、市民農園、観光農園、農園レストラン 等
農業・里山関連分野に関する研究開発	地域資源を活かした農業振興、農業研修機能等を導入する 農業・里山研修、農業振興関連モデル研究 等
CO2固定化、資源の循環的活用研究開発	木質資源利活用産業、自然エネルギー開発産業等を導入する 自然エネルギー開発産業誘致、竹の利活用、木質資源利活用産業誘致 等

<ゾーニング>

木津北地区	自然環境保全ゾーン
	・オオタカの生息環境の保全 ・森林を自然との共生文化を象徴するシンボル的緑地等として保全
	里山再生・活用ゾーン ・多様な主体の参画による森林風致の向上への取組 ・資源循環的活用等をテーマとした企業等の環境活動や研究フィールド
	歴史文化ゾーン ・歴史(史跡)公園等としての保全整備
田園保全・活用ゾーン	・農業に係わる地域振興施策、地域農業の活性化の推進 ・都市と農村の交流プロジェクト等のまちづくりの展開 ・環境への負荷の少ない栽培技術の実証実験等、新しい農業への取組
木津東地区	田園共生まちづくり誘導ゾーン ・田園環境に配慮した施設用地・住宅地 ・民間事業者の事業化への意欲を引き出し良好な環境を整備

図 土地利用構想



木津南・中央地区

木津東地区

木津北地区

<ul style="list-style-type: none"> 学研施設ゾーン 居住ゾーン 中心ゾーン 幹線沿道ゾーン 公園・緑地ゾーン 	田園共生 まちづくり 誘導ゾーン	共生ゾーン <ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全ゾーン 里山再生・活用ゾーン 田園保全・活用ゾーン 歴史文化ゾーン
--	---------------------------------	---

(出典:木津東部丘陵持続可能都市整備構想検討会／平成 20 年度)